



おかげさま と ありがたい の話

おはようございます。(おはようございまあす。)

6年生の会津に1年生がちゃんとお返事をして、みんなで元気な挨拶ができました。

さて、今日から12月。もう12月、1年の最後の月。いつのまにか、今年も終わりに近づいてきました。

この一年間、1年生も2年生も、3年生も4年生も、5年生も6年生も、みんなみんないろいろなことがあって、でもどのみなさんもきっといろいろな人の力を借りながら、いろいろな人のおかげで、元気に過ごしてくることができたのだと思います。

(ざわざわ。ごそごそ。……。よそみ、おしゃべり……。)

お話を聞いてくれる人がいて、初めてお話をすることができます。今日はおしゃべりやよそ見の人が多くて、お話をしたくなくなりました。ですからお話は終わります。

(お辞儀をして、がっかりして、残念な気持ちで、階段を降りました。)

……………。

……………。

……………。



はい、12月、最後の月、初めの1日からスタートできないのは困るね、では段の上には上らず、下でお話をします。

お話を戻します。

さてさて、そして、この1年間で、年長さんは1年生に、1年生は2年生に、2年生は3年生に、3年生は4年生に、4年生は5年生に、そして5年生だった皆さんが今6年生になってがんばってくれているのです。みんなみんな、力を合わせ助け合いながら1年間の間元気に過ごして一つ一つできないことをできるようにしてきたのですよね。

そして12月をむかえることができました。

そこで、毎年12月になると話すお話をします。

今日は、「おかげさま」と「ありがたい」、のはなしをします。

先週皆さんも聞かせてもらった5年生が、「連合音楽会」と言って杉並の小学校5年生が集まって、演奏したり、歌を歌ったりする演奏会に、雨の中を荻窪の杉並公会堂まで行ってきました。

桃五小の5年生は、気持ちを込め、心を一つにして素晴らしい歌声と演奏を響かせてきました。自分の学校をほめるのも何ですが、とっても素晴らしかったです。内緒だけど一番素敵だなあ、と思いました。そして、雨の中を学校まで帰って、「がんばりましたねおつかれさま……。」と挨拶をして、みんなが教室へ戻り、私も職員室に戻ろうとすると、男の子が二人走って追いかけてきてくれて、「校長先生、ありがとうございます。」と、精いっぱい元気に気持ち良く挨拶してくれました。なんだかとってもうれしくて元気の出る素敵な気分になりました。そして、「ありがとう」、「ありがたい」、って思える人はすてきだなとおもいました。そして今からするお話のおじいさんのことを思い出しました。

もう10年も前に亡くなられた方ですが、お元気だったら、今一番会いたいおじいさんがいます。そして、12月になると、このおじいさんのことを思い出します。

この方は、いつもお会いすると、「おかげさまでね……。」「……、ありがたいことだよ。」という言葉が口癖で、いかにもありがたそうに優しくお話しなさる方でした。

おかげさまでいい天気。おかげさまで大根が大きくなった。おかげさまで元気でいられる。

おかげさまで……。おかげさまで……。ありがたい、ありがたい。

こんなふうに、いつもいつもお礼を言っているようにみえますが、このおじいさんは決して人のお世話になっている人でも、人に助けられてばかりいる人でも、ありません。いえいえ、それどころか、逆に人のことをいつも心配して、いつも人の手助けをして、どんな人でも困っていればその人の相談にのり、一緒に悩み、自分のできることは何でもやってあげる。自分のことだけもいそがしいのに人のことを先にやってあげる。そんな、おじいさんなのです。

それなのに、いつも「おかげさまで……。」

いったい誰のおかげなのでしょう、むかし誰かに助けられたのでしょうか……。

いえいえ、そうではありません。このおじいさんは、いつも人に感謝する気持ち、ありがたいという気持ちを忘れない人なのです。誰かのおかげで、自分は元気で幸せにすごすことができる、「ありがたい ありがたい」と、思える人なのです。

「おかげさまでね、孫の書いた習字がね、廊下に張り出されているのでね、見せていただきますよ、ありがたいことに先生がよく見ていて、励ましてくれてるんでしょうねえ。孫がうちで、先生がほめてくれたって言って大喜びですよ、おかげさんでこれまで苦手だった習字が大好きになっちゃった。おかげさまでですよ。ありがたい、ありがたい。」

そして、そんなどんなことでもありがたいと思う感謝の気持ちがあるからこそ、近くに困っている人がいれば、黙ってその人のために精一杯のことをして助けてあげられるのです。それも「当たり前でしょう。」「お互い様ですよ。」といいながら。

ですから私もこのおじいさんとお会いすると、思わず「おかげさまで……。」という気持ちになり、どんなことでもお手伝いさせてもらいたいな、という気持ちになってしまいます。

ところが ね、桃五小の教室を回ってオープンスペースからそっと見ていると、ありがたいの反対。「のに」、「でも」、「だって」、の人がけっこうたくさんいるのが、とても悲しいのです。

「こんなにがんばっているのに……。」と言い訳をしたり、いつも手助けしてくれている友だちに向かって「でも、〇〇ちゃんだって僕のこと押ししたもん。」と叩いてしまったり、「だって、お母さんが……。」と、自分のことは反省もせず人のせいにしてしまったり……、自分のことは反省もせず、いいわけばかり。こんなことでは、悪いところをなおすこともできないですよ。

人は皆、誰も一人では生きていけません。気づかずにいるだけで、どこかで必ず誰かに助けられているはずなのです。けれどもそのことを感じる心、「ありがたいと思う心」、「おかげさまと思う心」いつの間にか忘れていませんか。

さてさて、皆さんは「おかげさま……」「ありがたい……」とってまわりの人に感謝してすごしていますか。

それとも逆に、自分の失敗や悪いことは人にせいにして、「のに、でも、だって」と思っているわけばかりしてすごしていますか……？

どちらでしょう……。今年の終わりの月、12月にひとつ「今年1年間の自分」のことを考えてみてください。

